

進む獣害防止対策 侵入防止柵の整備

南部振興局管内では、シカ・イノシシ等の野生鳥獣による農作物の被害は深刻であり、農家の生産意欲の減退による、耕作放棄地増加の原因となっていたことから、平成9年度より中山間地域総合整備事業で鳥獣進入防止柵（金網柵）の設置を進めています。

これまで、旧直川村、旧本匠村、旧宇目町の55集落、農地面積約300ヘクタールを対象に約140キロメートルの鳥獣進入防止柵を設置した結果、作物被害の大幅な減少が図られるとともに、地域ぐるみ

イノシシ、シカの侵入を防ぐ金網柵の設置



イノシシ、シカの侵入を防ぐ金網柵の設置

「ワナ特別捕獲班」の設置

由布市湯布院町には、銃による捕獲を中心にしたイノシシ・シカの有害鳥獣捕獲班員が26名いますが、高齢化等により人数が減少しています。また、活動は班員が各自の仕事傍らのため、ボランティアの要索が強く、捕獲要請が出ても活動が限定的で、有害獣の駆除や追いつけ等の農家の要望に十分応えきれない実態となっています。そこで、被害の多い地区を選定して自らワナの免許を取得し駆除に積極的な農家等による「ワナ特別捕獲班」を猟友会の指導・協力の結成しました。この特別捕獲班は、活動範囲を限定しており、対象地区の農地から100m以内の仕掛けに限定するなどの制限を設けていますが、機動力を持った銃主体の従来の捕獲活動と連

携することで、農林産物被害の軽減が期待されています。さらに、特別捕獲班の設置により農家が自ら被害に立ち向かう意識づけにもつながり、地区全体の共通の課題として獣害被害防止の取組が始まっています。

（中部振興局 柏木）

水田排水改良対策の実施

北部振興局管内では、水田における麦・大豆等畑作物の導入及び品質・収量の向上による農業所得向上のため、暗渠工法（シート



品質の向上、収量増となった麦の収穫

春そば試食会の開催

豊後高田市そば生産組合で栽培されている春そば「春のいぶき」の収穫が始まり、6月4日に新そばの試食会が市内の旅庵・露臺で開催されました。生産者の代表や関係者約30名が参加し、打ちたてのそばを味わいました。

た。豊後高田市では、平成15年度よりそばの産地化に取り組みんでおり、県内一の産地となっています。

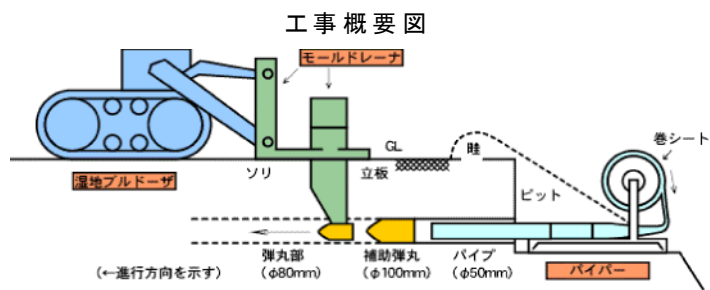
（北部振興局 山本、西村）

平成13年度から20年度末までの管内での水田排水対策実施面積は1,127.9ヘクタールとなっています。特に宇佐市では、県産焼酎「西の星」の原料麦を約500ヘクタールで、また、宇佐・中津両市で味噌・醤油用麦約400ヘクタールの契約栽培も行われており、今後更なる面積拡大と品質向上・収量の増が期待されています。

集落営農組織や担い手農家の経営安定のためには、排水改良による

る汎用農地の確保が重要であることから、本年度も管内約140ヘクタールの水田を対象に排水改良対策を実施する予定です。

（北部振興局 照山）



集落営農法人への新規品目の導入

にんにくの産地化

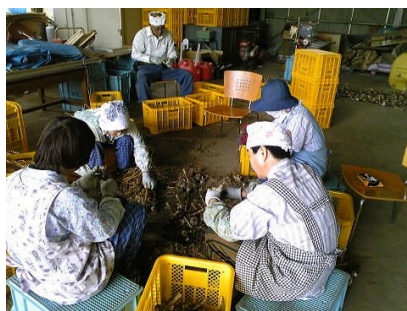
豊後大野市集落営農法人連絡協議会（市内26法人加入、会長廣瀬成芳）では、集落営農の経営改善に向け高収益品目の導入を検討していました。このため、平成20年5月に、法人連絡協議会に対し、大分県農協が産地化をすすめるにんにくを重点品目とすることをについての説明を行いました。



にんにく栽培実証圃

法人連絡協議会は、臼杵市への先進地視察

にんにく調製作業



や出荷状況調査を重ねた結果、20年10月に8法人で2ヘクタールが植付けされ、個人を含む全体で23戸、3ヘクタールのにんにく産地が出来ました。栽培技術については、現地研修や実証圃の設置を行い関係機関をあげて普及しました。本年は、春腐病や二次成長の発生がみられたものの、概ね順調に生育し、5月下旬に

初収穫をむかえました。収穫後の乾燥には、遊休化しているタバコ乾燥機を活用した農協による共同乾燥を行いました。出荷量は22tを予想しており、目揃会での規格統一を行い、6月14日の出荷開始に向けた取り組みを行いました。

（豊肥振興局 藤田）

新規品目導入検討会

集落営農法人の売上を拡大し、経営発展を進めるため、5月14日に豊後高田市で「新規品目導入検討会」を開催しました。県内各地から集落営農法人や関係機関など約90名が参加し、熱心に研修が行われました。室内研修では、集落営農法人が取り組みやすい里芋や白ねぎの導入に向けた栽培方法や流通について紹介をしました。

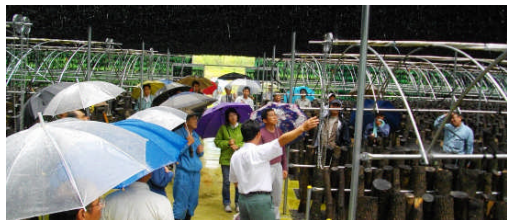
原木しいたけ栽培 新規参入者ステップアップ研修

乾しいたけ価格の回復等により、原木しいたけ栽培の新規参入希望者が増えています。しかしながら、参入に際して栽培方法や経営に不安を感じている人が多いことから、昨年末に東部振興局管内で栽培を始めた人と考えている人や栽培を開始して間もない人を対象に「基礎研修会」を

開催しました。今回、原木しいたけ栽培の理解をさらに深めるための「ステップアップ研修会」を6月10日に開催したところ、24名の参加がありました。原木しいたけ栽培は、植菌後3ヶ月の降雨が重要なポイントであるため、近年の春先の小雨対策を中心に研修を行いました。主な内容は、ほだ化初期に散水管理を行っている現地事例や、優良生産者によるほだ化

また、（農くわなわ郷雲林の里芋圃場や呉崎の白ねぎ圃場の現地を視察し、実際の栽培状況についても研修を行いました。集落営農は農地をまとも、集落の労力を活用できるといった特徴があります。里芋や白ねぎ等を大規模につくって、目に見えた所得があがるように推進をしていきたいと考えています。

（集落・水田対策室 光長）



現地研修風景

良生産者によるほだ化作りのポイント説明等です。その後の意見交換会では、ほだ化作りにおける散水の方法をはじめ多くの意見が出され、参加者の原木しいたけ栽培への意欲の高さが感じられました。

大分県の将来の原木しいたけ栽培にとって、新規参入者の確保は重要課題となっており、新規参入者や希望者が安心して原木しいたけ栽培に取り組めるよう、サポートを強化します。

（東部振興局 河野）

